

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
低所得者に対する支援と生活保護制度 Support and Public Assistance for Low-income Households		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修 社会福祉主事任用資格に係る科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会保障論Ⅰ・Ⅱ、高齢者福祉・障害者福祉・母子福祉等関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
吉田 志保	本館3階	授業以外		授業中に指示します
授業の概要				
<p>貧困は病気や失業など、さまざまな原因で誰もが陥る可能性がある。貧困に至る原因や課題について共感的に理解し、相談援助職として必要な社会資源や支援方法について学ぶ。そのうえで、社会福祉士が果たすべき役割について、自ら考え理解する。</p>				
授業の目標				
<p>①低所得者層の生活実態と、それを取り巻く社会環境について理解する。 ②貧困に対する支援としての社会資源について、生活保護制度やその他の法制度について学び事例を通して活用することができる。 ③自立支援プログラムの意義とその実際について学ぶ。 ④貧困に対する現状と課題を知り、共感的に理解する。</p>				
授業の方法				
テキスト及び視聴覚教材を活用し、講義やアクティブラーニング形式に進める。				
学習の成果（学習成果）				
<p>①低所得者層の生活実態と、それを取り巻く社会環境について理解し説明することができる。 ②貧困に対する支援としての社会資源について、生活保護制度やその他の法制度について説明することができる。 ③自立支援プログラムの意義とその実際について説明することができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の進め方・留意事項・成績評価等）			
第2回目	公的扶助（生活保護）の概念と歴史について（海外の歴史）			
第3回目	公的扶助（生活保護）の概念と歴史について（日本の歴史）			
第4回目	貧困と社会的排除 絶対的貧困と相対的貧困			
第5回目	生活保護制度の現状① 生活保護法の構成			
第6回目	生活保護制度の現状② 生活保護制度の原理と原則及び運用について			

第7回目	生活保護制度の現状③ 制度の内容と保護の種類（1）について	
第8回目	生活保護制度の現状④ 制度の内容と保護の種類（2）について	
第9回目	生活保護制度の現状⑤ 保護施設【演習：グループワーク】	
第10回目	生活保護制度の現状⑥ 保護施設【演習：グループワーク】発表	
第11回目	生活保護制度の現状⑦ 罰則（不正受給）【視覚教材】（課題 レポート 提出は第12回授業時）	
第12回目	低所得者対策の概要	
第13回目	ホームレス（路上生活者）と生活保護について	
第14回目	生活保護制度の課題について	
第15回目	現代の貧困と生活保護及び低所得対策の課題 授業のまとめ	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者や担任に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。
レポート	10%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	論述、記述式の試験を行い評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：『低所得者に対する支援と生活保護制度』 社会福祉士養成講座・中央法規 参考書・参考資料：授業の都度指示、資料を配布する。		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（職種：社会福祉士（生活相談員）、介護支援専門員（ケアマネジメント）職歴：通算4年1ヶ月） 新聞等により生活保護の動向、ホームレス（路上生活者）の動向を把握しておくこと。 目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。		